



知多の農林水産物を手に入れよう

野菜や魚を美味しくいただくには、なんといっても鮮度が重要。地元で取れた新鮮で、安全・安心な農林水産物は、直売所で購入できます。栽培技術の研修や、消費者との交流などに共同で取り組む知多農産物直売研究連絡会には、約2,500名の農業者が参加しています。また、南知多町にある豊浜魚ひろばや、日間賀島東港などには水産物直売所があります。

お出かけの際には、見開き地図「知多のイチオシ！」で確認してください。



農林漁業者と商工業者のコラボ

農林漁業者と商工業者が連携して、知多地域の農林水産物を活用した付加価値製品や地産地消の商品開発、販路の開拓を行っています。

知多養鶏農協(半田市)では、知多地域の鶏卵と阿久比町のお酢屋さんの黒酢に美浜町の天然塩を使用した黒酢マヨネーズなどを販売しています。

武豊町では、たまり蔵元が地元で生産した大豆を使った安全・安心なたまり製造に取り組んでいます。さらに、その搾り粕を牛の飼料として利用する循環型農業の構築も進んでいます。



みかんの木のオーナー

都市と農村との交流及びみかんの活用を図るため、東海市・美浜町で農協・市町と協働してみかんの木のオーナー制度を実施しています。

連携交流

みんなにさかなの素晴らしさを伝えたい

魚介藻類は、高タンパク、低カロリー、不飽和脂肪酸(DHA等)が豊富な健康食品です。知多地域でとれる水産物をブランド化したり、より多くの人を知ってもらう普及活動をしています。特に、若い人たちに地元産魚介類の美味しさを知ってもらうために、地元若手漁業士が大学などで調理指導を行いながら、魚食普及に努めています。



愛知を食べよう いいともあいち



地元の農林水産物に関心をもって、積極的に消費する地産地消の取組を「いいともあいち運動」として進めています。地元の農林水産物が何かを知り、味わってみてください。購入や飲食は、知多地域にあるいいともあいち推進店(平成21年3月現在58店)でどうぞ。

<http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/iitomo/shop/index.html>

地産地消

継承発展

地域農業や農村生活を支える先達たち

優れた農業経営や農家生活を営み、地域農業や農村女性の先導役として活躍している農業者を「農業経営士」「青年農業士」「農村生活アドバイザー」として愛知県知事が認定しています。

また、農業経営の改善計画を策定し、目標達成を目指す農業者を「認定農業者」として市町長が認定し、様々な施策等で応援しています。



多様な担い手の確保・育成の受け皿 株式会社JAファームちた(仮称)設立

あいち知多農協は、平成22年4月、農業生産法人「株式会社JAファームちた(仮称)」を設立します。

地域の効率的かつ安定的なモデル的農業経営体として、耕作放棄地等の解消、優良農地の確保を図るとともに、新たな雇用の場の創出や新規就農及び就農希望者の受け皿となり、担い手を育成・確保します。

また、県内最大規模の苗生産センターにおいて、年間約360万本の野菜苗を生産して農家へ供給し、農業振興を目指します。



JAあぐりタウンげんきの郷 農林水産大臣賞受賞と 地産地消の仕事人

げんきの郷が、地産地消活動の一層の推進と食料の自給率向上を図るために実施されている地産地消優良活動表彰において、平成20年度に最優秀賞である農林水産大臣賞(地域振興部門)を受賞しました。

また、地域で優れた地産地消活動の実現に活躍されている「地産地消の仕事人」に、平成20年度、東海三県で唯一、鈴木社長(げんきの郷)が選ばれました。



自然の環の中で営まれる水産業

知多地域の漁業は、湾の奥から太平洋へとつながる変化に富んだ漁場環境で、60種以上の多様な魚種が漁獲され、まさに海洋の生物多様性の上に成り立っています。

また、漁業活動や地元の魚介類を食べることは、海へと降りた栄養分を再び陸へかえすことになり、環境の物質の流れに循環をもたらします。



知多の味覚を運ぶ農道

都市近郊という立地条件を活かすため、知多半島を南北に結ぶ農道が整備されました。農作物の市場への流通が広がり、これまでよりも大量の取り引きがなされています。



生産基盤



水不足から得た財産

～ため池と愛知用水～

知多地域には、大河川などの水源がなく、農業用水を確保するため、昔の人々は大変苦労していました。そこで、ため池をつくる場所として適した地形が多いこともあり、多くのため池が作られました。その数は県内の約40%を占めています。

愛知用水の完成後、慢性的な農業用水不足は解消されましたが、愛知用水はため池に補給する役割で通水しているため、ため池の重要性は現在でも変わっていません。



農業の土台づくり

知多地域は農地や山林が入り組んだ地形のために、農業の土台となる生産基盤の整備が遅れていました。しかし、愛知用水の通水と合わせて整備が進むと、温暖で都市近郊という恵まれた条件を活かした地域へと発展しました。

近年では、大雨によるたん水から農作物を守る排水機場の整備や、老朽化したため池の補修と併せて身近な水辺として利用できるように環境整備も行っています。



環境

もり 健全な森林づくり

森林は、災害の防止や水源のかん養、保健休養といった様々な役割を果たしています。治山事業では、これらの機能を高め、緑豊かな生活環境を保全するために、市街地周辺に残る貴重な森林の整備をしています。



農村のかけがえのないたからもの

農地や農業用水は、農業生産の役割だけでなく、農村環境を潤すかけがえのない宝物です。一方で、これらを支えてきた「地域の共同活動」が、農家の高齢化や農村の混住化によって失われつつあります。

そこで、農業者や地域住民が行う農村環境を支える活動や、化学肥料や農薬の使用を少なくした営農活動の支援をしています。



平成21年度からスタート！「あいち森と緑づくり事業」

森や緑の恩恵は、全ての県民の皆様が受けています。また、森は海の恋人といわれるように、豊かな緑なくして豊かな海はありません。このため、森や緑をみんなで支え、守っていく必要があります。そこで、県民の皆様にご負担いただく「あいち森と緑づくり税」を財源として「森林」「里山林」「都市の緑」をバランスよく整備・保全し、「山から街まで緑豊かな愛知」の実現を目指しています。特に知多地域では、竹林の駆除等の里山林の整備、都市緑化、環境活動等への支援、公立小中学校への県産材使用の机・椅子の整備について取組みます。



環境にやさしい農業の実践者 エコファーマー

環境と安全に配慮した農業を推進するため、化学肥料や農薬の使用を少なくするなど栽培技術を工夫した農家をエコファーマーとして認定し、地球にやさしい農業に取り組んでいます。

